慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	学位授与者氏名及び論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1976
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.16 (1976.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学事報告
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069 57X-00000016-0089

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学事報告

学位授与者氏名および論文題目
(昭和50年3月)

修士

社会学修士 (社会学専攻のもの)

第272号 浜田とも子 日本人のコミュニケーション行動(歴史的モデルの考察)

第273号 花嶋 桜子 ボランティア活動をすることにおける価値意識の変化(ケーススタディを中心としたその一考察)

第274号 何 錦栄 共産中国の社会構造と人間性格の変化

第275号 今井 良子 Intracerebral hematoma 患者における臨床神経 心理学的考察

第276号 石井 嘉明 隠岐武良祭の研究

第277号 笠原 清志 「労働における精神的力能の変遷と組織論的課題」—工作機械の発達に伴う個別労働の変化とシステムの機能的要件からの考察—

第278号 木田 理文 異化的千年王国主義—17世紀英国共和制期における一極左派ランターズの宗教学的研究

第279号 小島 哲夫 企業組織における諸問題

第280号 許斐 修輔 日本的組織における役割獲得過程の研究—結果の一部と考察—

第281号 黄 健雄 1949年から中国の人口流動 (Population movements in China Since 1949)

第282号 久下沼公愛 「生活の質」指標に関する一研究 〔副題〕ライフ・アメニティ・インディケータによる「生活の質」の測定と分析

第283号 三瓶 清朝 インド文化における儀礼的浄と汚れの構造

第284号 三宅 宣幸 「隠れキリシタンにおける土着化の問題」—隠れキリシタンの一宗教社会学的考察

第285号 宮本 純男 近代市民社会と中間階層(ファシズムをめぐって)

第286号 長野 康二 危機意識の系譜。副題,知識社会学への一考察

第287号 西川 昭男 エミール・デュルケームの学説—「道徳の実証科学」—

第288号 大島 久雄 『少年保護 — その制度と処遇をめぐる社会学的一考察』

第289号 大塚 博史 生活主体における労働の復権

第290号 坂田 愛子 疾病及び不適応における補助自我機能の一考察

第291号 重里 俊行 企業間労働移動意識の多変量解析

第292号 菅沢 均 「現代社会」論に関する学史的考察(一)

第293号 杉浦 章介 空間における人間行動—銀座における歩行者行動の計量的研究—

第294号 寺田 浩司 戦間期における農家労働力の移動についての考察

第295号 梅沢 隆 機能主義社会学における機能要件論の試み

第296号 和崎 春日 左大文字の社会人類学

第297号 山本 陽子 日本人における世界観と対人認知

文学修士 (心理学専攻のもの)

第298号 林部 英雄 幼児における文構造理解の発達について

第299号 樋口 義治 ヒヨコにおける初期経験の効果 単色光下飼育の般化勾配に及ぼす影響

第300号 松木けい子 構文の理解力の発達—3歳児～6歳児における実験的研究—

第301号 鈴木 成生 伝書鳩の線条体損傷のオペラント弁別に対する効果

第302号 高田 孝二 デンショバトのオペラント条件づけに伴う線条体における緩電位変動

教育学修士（教育学専攻のもの）

第303号　松丸　修三　ジョン・デューイ教育思想における「経験」の概念 —「経験」概念の性格および「教育的経験」の構造を中心に—

第304号　内藤　俊史　道徳判断における認知的発達

第305号　小野　　裕　家族構成と親子関係

第306号　太田　　勇　「精薄児教育論 —人間存在に対する一つの答え—」

第307号　佐藤　興一　PF-Study の選択肢法化についての一研究

第308号　豊島　義明　幼稚園児における親子関係図式と情緒不安及び態度との関係についての研究

第309号　岸野美由紀　高校生の精神生活についての発達的研究

博　士（甲）

社会学博士

第451号　川　合　隆　男　　昭和50年5月21日

社会的成層の研究—現代社会と不平等構造

〔論文審査担当者〕

主　査　慶応義塾大学 経済学部教授　経済学博士　青　沼　吉　松
社会学研究科委員

副　査　法学部教授　社会学博士　十　時　厳　周
社会学研究科委員

〃　慶応義塾大学名誉教授　米　山　桂　三
法学博士

〔論文審査の要旨〕

第一部　社会的成層の理論的研究

第一章　比較社会学的研究の展開

第二章　社会学と比較社会学的研究

第三章　社会変動について——社会変動としての近代社会の生成と展開

第四章　現代社会と不平等構造

第五章　社会移動の国際比較

第二部　社会的成層の個別的歴史的研究

第六章　近代日本における社会的成層研究の方法と課題

第七章　現代日本の階級構造とホワイト・カラー層——1955年～1970年

第八章　原爆被災の社会的影響と生活構造

第九章　アジア諸国における社会変動と不平等構造

この論文の第一部では，比較社会学的研究の動向に着目しながら理論的研究，歴史的研究および比較研究という三者の相互関連的な展開の必要を説き，社会の成層化と社会移動の問題を扱っている。第二部は社会成層の個別的歴史的研究に当てられている。そこでまず取り上げられているのは近代日本における社会成層研究の方法と課題であり，さらに，現代日本の階級構造の変化に注目しながらホワイト・カラー層の問題が分析されている。これらに続いて出てくるのが，個別的歴史的接近法の立場を重視しながらなされる実証的研究の成果である。原爆被災者の社会変動と不平等構造の問題は，かなり詳細にわたって個別的に記述されている。これに比べると，アジア諸国における同じような問題の論述は結論的次元にとどまっている。筆者が「発展途上国の社会学」として従来から関心を寄せてきたインドネシアなどに関する地域的研究の成果を踏まえて，将来の実証的研究への土台を築こうとする意図が，そこにひめられているのであろう。

第一章では，社会的成層の比較社会学的研究という観点からして，社会学の発展が三つに分類される。第一期の社会学草創期においては，自然科学をモデルとして成立した社会学は，歴史要因を無視したという理由で批判される。第二期の社会学形成期の社会学者のなかでは，E・デールケムとM・ウェーバーの業績が高く評価される。第三期に当たるとされる現代社会学のなかでは，T・パーソンズの機能主義的立場からの比較研究とK・マンハイムの歴史主義的研究が注目される。筆者はこれらを検討したうえで，「歴史的構造主義」の立場を採用する。学説史的な論議を重ねると，際限はないが，研究の視点だけはかなり明白に打ち出されている。歴史的個別性を強調しながらも一般化への志向を失ってはないことが注目される。

理論的研究，歴史的研究および比較研究の三つの相互補完性を究明しようとするのが，第二章の課題である。これにこたえることによって，筆者は産業化と社会的成層の相関関係を把握し，成層構造の比較社会学的研究を目指すという構想を明らかにしている。この構想は本論文の後半においても充分に具体化されているとはいえない。しかし，わが国の社会学界において国際的な比較研